

金 栗 四 三 年 譜

年	西暦	月	日	事項	満年齢
明治24	1891	8	20	玉名郡春富村（現 和水町）に父 信彦・母 シエの間に生まれる	0歳
明治30	1897	4		春富村吉地尋常小学校入学	5歳
明治34	1901	4		玉名北高等小学校入学 往復12キロ通学	9歳
明治38	1905	3	4	父 信彦病死（56歳）	13歳
明治43	1910			熊本県立玉名中学校（現 県立玉名高等学校）進学、特待生を命ず 東京高等師範学校（現 筑波大学）進学、校長 嘉納治五郎 春の長距離競走（12キロ）25番、秋の長距離（24キロ）3番	18歳
明治44	1911			徒歩部に入部	19歳
明治45	1912	11	19	国際オリンピック大会選手予選会で世界記録達成 2時間32分45秒	20歳
明治45	1912	7	14	第5回オリンピックストックホルム大会マラソンに日本人初の出場 暑さのため26キロ過ぎで棄権	
大正2	1913	4		東京高等師範学校最高学年、徒歩部長となる 千葉県館山北条海岸で耐暑トレーニング	21歳
大正3	1914	11	2	第1回陸上競技大会で世界記録達成 2時間31分28秒	22歳
大正3	1914	3	15	東京高等師範学校地理科卒業、研究科に進む	
大正3	1914	4	10	玉名郡小田村池部家への養子のお話まとまる、スヤと結婚 マラソンの普及活動のため全国の師範学校を訪問する	
大正4	1915	11	23	第2回陸上競技大会で世界記録達成 2時間19分20秒3	23歳
大正4	1915	5		第2回極東選手権競技大会（上海）に参加	
大正4	1915	11	21	第3回陸上競技大会で優勝、三連覇	24歳
大正5	1916	秋		大日本体育協会から功労賞	
大正5	1916			第6回オリンピックベルリン大会、第一次世界大戦のため中止	
大正5	1916	9	5	著書『ランニング』（明石和衛と共著、菊屋出版部）刊行	25歳
大正6	1917			4月27日～29日 日本初の駅伝奠都記念東海道五十三次駅伝徒歩競走を企画 アンカーをつとめ優勝	
大正6	1917	4	29	大日本体育協会から功労賞	
大正6	1917	7	22	第2回富士登山マラソン競走 高地トレーニング始める	
大正6	1917	10	10	神奈川県師範学校赴任（担当科目地理）	26歳
大正7	1918	4	10	東京市私立独逸学協会中学校に移る	
大正8	1919			7月22日～8月10日 下関－東京間1200キロを20日間で走破、秋葉裕之と	27歳
大正8	1919	11	23	日光－東京間130キロを20時間で完走 金栗足袋商標登録、販売開始	28歳
大正9	1920	2	14	第1回東京箱根間往復駅伝競走を計画	
大正9	1920	3	31	東京市私立独逸学協会中学校退職	
大正9	1920	8	22	第7回オリンピックアントワープ大会マラソン出場 16位	29歳
大正10	1921	1	10	東京府女子師範学校（現 東京学芸大学）奉職	
大正10	1921	6	18	全国マラソン連盟設立 初代会長となる	
大正10	1921	10	31	日本初女子テニス大会開催	30歳
大正11	1922			8月3日～26日 樺太－東京間を20日間で走破、秋葉裕之と	31歳
大正11	1922	11	12	第1回女子連合競技大会	
大正12	1923			関東女学校体育連盟結成	
大正13	1924	4	5	著書『小学校に於ける競技と其の指導法』（南光社）刊行	32歳
大正13	1924	7	13	第8回オリンピックパリ大会マラソン出場、途中棄権 第一線から引退	
大正13	1924	11	19	東京府女子師範学校教諭、東京府立第二高等女学校（現 東京都立竹早高等学校） 教諭となる	33歳
昭和2	1927	8		第8回極東選手権大会（上海）陸上総監督	36歳
昭和4	1929	9	2	父親代わりだった兄 実次死去	38歳
昭和5	1930	9	29	東京府女子師範学校、東京府立第二高等女学校退職	39歳
昭和6	1931			故郷へ帰る、栗本義彦と九州一周走破	
昭和11	1936	12		オリンピック東京大会開催決定、直後単身上京、日本で初のオリンピック誘致に奔走 東京市私立十文字高等女学校（現 私立十文字中学・高等学校）奉職（～16年まで） スヤと6人の子ども上京	45歳
昭和13	1938	5	4	嘉納治五郎 死去（I O C総会の帰途、氷川丸船内にて肺炎により死去）	46歳
昭和13	1938	7	16	第12回オリンピック東京大会返上	
昭和16	1941	3		私立青葉女学校に移る	49歳
昭和19	1944			夏休みより家族が郷里へ帰る	

昭和20	1945	3	私立青葉女学校退職、郷里へ	53歳
昭和21	1946	2	15 熊本県陸上競技協会発足	54歳
		4	1 熊本県体育協会発足、初代会長に就任	
		5	三太郎走破駅伝開催	
		9	県下中等学校陸上競技大会復活	55歳
		11	3 第1回熊本県民体育祭開催に尽力	
昭和22	1947	1	4 東京箱根間往復駅伝競走復活	
		4	1 熊本陸上競技協会の第2代会長に就任	
		12	7 第1回金栗賞朝日マラソン開催、のち福岡国際マラソン選手権大会	56歳
昭和23	1948	11	1 熊本県初代教育委員長（公選制）に就任（～25年まで）	57歳
昭和24	1949	2	27 西部マラソン20キロ大会、佐世保にて開催	
昭和27	1952	11	高松宮杯西日本各県対抗九州一周駅伝の企画に係わる 熊日社会賞受賞	61歳
昭和28	1953	4	第57回ボストンマラソン日本監督、山田敬蔵優勝（世界記録2時間18分51秒） 西日本文化賞受賞	
昭和30	1955	10	23 秩父宮賞受賞	64歳
		11	3 紫綬褒章受章	
昭和32	1957	3	24 紫綬褒章受章を記念して第1回熊日招待マラソン（30キロ）開催 のち金栗記念熊日30キロロードレース	65歳
		11	3 熊本県近代文化功労者として顕彰	66歳
昭和33	1958		朝日文化賞受賞	
昭和34	1959	5	第18回オリンピック開催地東京に決定	67歳
		6	7 西部マラソン30キロ大会、第11回より玉名市に定着	
昭和35	1960	10	24 第15回国民体育祭熊本大会で、最終炬火ランナーとして走る	69歳
昭和37	1962	11	1 玉名市名誉市民となる	71歳
昭和39	1964	10	10 第18回オリンピック東京大会開催	73歳
		11	3 勲四等旭日小授章受章	
昭和40	1965	11	10 秋の園遊会に招かれる	74歳
昭和42	1967	3	3月20日～4月1日 スウェーデン五輪委員会の招きにより、55年ぶりに同国訪問 半世紀目のゴール 54年8ヵ月6日5時間32分20秒3	75歳
昭和44	1969	5	31 熊本県立玉名高等学校に銅像建立	77歳
昭和45	1970	4	19 西部マラソン30キロ玉名大会を「金栗杯玉名30キロマラソン大会」と改称 平成8年から現在の「金栗杯玉名ハーフマラソン大会」となる	78歳
昭和47	1972	1	9 熊本走ろう会発足、名誉会長となる	80歳
昭和48	1973	3	11 第1回全国壮年天草パールラインマラソン大会開催	81歳
		4	玉名市陸上競技協会創立、顧問となる	
昭和58	1983	11	13 永眠 従五位銀杯下賜	92歳
平成12	2000	秋	金栗四三関係資料が玉名市立歴史博物館ころろピアに寄贈される	
平成14	2002	3	企画展「マラソンの父・金栗四三～25万キロの人生～」を開催	
平成24	2012	6	企画展「ストックホルムオリンピック出場から100年 金栗四三展」を開催	
平成30	2018	11	新玉名駅前に玉名高等学校同窓会が銅像を建立	
令和元年	2019	5	企画展「金栗四三展 とつけむにゃー展示ばい!!」を開催	